

# 給食と図書室がコラボします！



10月27日(木)～11月9日(水)は読書週間です。終戦の2年後の1947年、まだ戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・書店と図書館などが力をあわせ、そして新聞や放送のマスコミも一緒になり、第1回「読書週間」が開かれました。スポーツの秋、食欲の秋、芸術の秋など・・・気候が良く、食べ物もおいしい秋の季節は楽しみも多いですね。普段あまり本を読んでいない人もこの機会に「読書の秋」を楽しんでみてはいかがでしょうか？



「読書週間」は今年で76回目をむかえます。  
公益社団法人「読書推進運動協議会」が読書週間を紹介するために毎年ポスターを作成しています。



↑今年のポスター



↑読書週間マーク

参考文献:「公益社団法人 読書推進運動協議会」HP

講談社 BOOK 倶楽部「流星の絆」、集英社オレンジ文庫「ゆきうさぎのお品書き」



## ～本の紹介～



### ①「流星の絆」(講談社文庫)

東野圭吾 著

あらすじ・・・惨殺された両親の仇討ちを流星に誓い合った三兄妹。14年後、互いのことだけを信じ、世間を敵視しながら生きる彼らの前に、犯人を突き止める最初で最後の機会が訪れる。3人で完璧に仕掛けたはずの復讐計画。その最大の誤算は、妹の恋心だった。



給食では三兄妹の両親が経営していた洋食屋「アリアケ」の看板メニューかつこの物語のカギとなる「ハヤシライス」を作ります！(11/1(火)です。)

「流星の絆」はラストまで結末が予測できないハラハラドキドキのミステリー小説です。2008年には実写ドラマ化もしています。五中の図書室にも置いてある本なのでぜひ読んでみてください。

### ②「ゆきうさぎのお品書き」

6時20分の肉じゃが(集英社オレンジ文庫)

小湊悠貴 著

あらすじ・・・ある事情から、極端に食が細くなってしまった大学生の碧。とうとう貧血で倒れたところを「ゆきうさぎ」という小料理屋を営む青年、大樹に助けられる。彼の作る料理や食べっぷりに心惹かれた碧は、バイトとして雇ってもらうことに！店の常連客や、お向かいの洋菓子店の兄妹、気まぐれに現れる野良猫(?)と触れ合ううち、碧は次第に食欲と元気を取り戻していく。



「ゆきうさぎのお品書き」は全10巻で構成される人気小説です。原作をもとにした漫画も発売されています。どの巻にもおいしそうな料理が出てきますが、給食ではその中から「肉じゃが」を作ります。(11/9(水)です。)同じく、五中の図書室に置いてある本です！